

全職員の努力をムダなく収入へ！

病院経営の根幹をなす診療報酬業務を集約し、専門性の向上を目指して平成18年4月に設置されました。臨床現場での医療行為が適切に収入に反映される仕組み作りや、適正な診療報酬請求のための情報提供を行っています。また、診療報酬の知識と経験を備えた病院経営を担う人材の育成を目指しています。

体制

病院長の下に設置された部局で、経営担当の副院長がセンター長を兼ね、教員3名(医師2名)と医務課をはじめとするスタッフから構成されています。診療情報管理士なども含めたさまざまな職種の間が結集し、めまぐるしく変化する診療報酬制度をスムーズに臨床現場に適合させています。月一回の定例会議を中心に、その時々課題にも対応しています。



活動内容

- ①診療情報管理士を中心に、大学病院の入院患者の大きな比重を占めるDPCに対応した請求体制を確立させました。その成果は学会発表などを通じて社会に還元し、大学病院としての使命を果たしています。
- ②診療報酬請求を支援する商用ソフトウェアの導入とともに、京大病院独自のニーズに対応したソフト開発にも取り組み、臨床現場ならびに請求事務の負担を軽減しています。
- ③診療科ヒアリングや各種委員会などを通して各診療科に診療報酬関連情報を包括的にアナウンスする一方で、日々の臨床事例にまつわる診療報酬上の疑問には個別に対応し、現場と密に連携しています。



新規な医療シーズの産学官連携促進活動

新規で有用な標準医療を開発するための活動において、研究者と企業および政府機構との橋渡し役を、探索・創薬型初期臨床評価の実施の面から展望します。業務は京大医学領域の研究成果の発掘・権利化、その研究進捗管理、医師主導の初期臨床試験・治験の促進と、産学官連携による、新規で有用な標準医療化を目的にしたライセンス・共同研究・技術移転促進、研究成果の国際連携促進などです。

部の体制

学内の産学官連携に関する諸部門との連携が緊密に図れるよう、当部の部長は、京大産学連携センターのスーパーアドバイザーと文部科学省産学官連携コーディネーターを兼任しています。



事業内容の特徴と実績

- ①新医療シーズの発掘と研究主題進捗管理
臨床評価を展望し得るバイオ医学シーズを発掘し、その実用化までの開発スケジュールを含んだ管理を研究者とともに約60主題について行っています。
- ②医師主導の治験・臨床試験の促進
前臨床・非臨床データおよび臨床試験用サンプルの安定的な製造・供給ルートを整備。医師(医療機関)主導の治験・臨床試験体制の構築活動に参画し、企業との必要な共同連携・契約折衝を担当しています。
- ③参入障壁
知的財産の取得、生物学的基礎データおよび臨床データの蓄積、許認可や承認の取得を目的とした厚生労働省・FDA・EMAとの折衝などを通じ、当該研究成果の参入障壁が高まるための諸策を講じています。
- ④技術移転促進・研究資力・産業化
バイオ医薬品企業の共同研究参画折衝・ライセンス折衝を行い、研究資力の導入と確かな産業化を促進します。
- ⑤国際活動・「学・学・産・官」国際連携
トップレベルの医学研究をもとにした国際「学・学」連携に当該国の「産・官」からの参画を招き、新規で有用な新医療技術の国際的な標準化を図っています。



これらの活動により、大学の第三の責務である「大学の研究成果の社会への還元」と、附属病院の基本方針の一である「新医療技術・新医薬品候補の標準医療化活動」に資する所存です。